

市町村名	伊是名村
------	------

沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】

事業名	水産物加工施設機能強化事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア		
					ハ 農林水産業の振興等に資する事業		
担当部課名	農林水産課	事業実施 年度	令和 3	~ 令和 3	年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(6)

事業内容
もずくカゴ及びリサイクルプラ缶洗浄作業の効率化やもずく加工施設で製缶したもずくの出荷量の増加を図ること及び衛生管理に必要な洗浄機の整備を行う団体を支援する。

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		~3年度	4年度	5年度	6年度	合計
	A. 予算現額	4,976	0	0	0	4,976
	B. 執行済額	4,960	0	0	0	4,960
	うち 交付金充当額	3,968	0	0	0	3,968
	執行率(%) (B/A)	99.7%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	99.7%
執行状況の説明	もずくカゴ及びリサイクルプラ缶洗浄作業の効率化やもずく加工施設で製缶したもずくの出荷量の増加を図ることに必要な洗浄機の整備を行う団体を支援することができた。					

事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況				
		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	もずく運搬用カゴ及び製缶用リサイクルプラ缶の洗浄機械の導入	目標	1基			
実績		1基				
	目標					
	実績					
	目標					
	実績					

事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況				
		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	機械設備購入及び設置	目標	1基			
実績		1基				
【R4成果目標】 1日当たり平均447個以上のもずくプラ缶を製缶する。	目標	-	447個			
	実績	-	450個			
	目標					
	実績					

事業完了後の取り組み							
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成/進捗状況				
	<input type="checkbox"/> 中期にわたる事業効果 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度に発現する事業効果		4年度	5年度	6年度	7年度	4年度 目標/発現年度
	【R4成果目標】 1日当たり平均447個以上のもずくプラ缶を製缶する。		目標	447個			
			実績	450個			
			目標				
		実績					
状況説明	<p>【R4年度】 ・令和4年度以降のもずくプラ缶製缶数の1日当たり平均目標は447個以上となっており、今年度実績は1日当たり平均450個となり、現時点では、目標と同等レベルで達成している。</p> <p>【R5年度】 ・令和4年度と同等以上に目標達成を目指す。</p> <p>【R6年度】 ・令和4年度と同等以上に目標達成を目指す。</p>						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
<p>【4年度】 ・もずく運搬用カゴ及び製缶用リサイクルプラ缶の洗浄機械を導入したことにより、製缶したもずくの出荷量の増加を図ること及び衛生管理の更なる促進が可能となった。</p> <p>【5年度】 ・令和4年度の実績の同等かそれ以上の効果が期待できる。</p> <p>【6年度】 ・令和4年度の実績の同等かそれ以上の効果が期待できる。</p>			<p>【4年度】 ・自然環境を相手にする養殖業においては、外部環境の変化を受けやすいため、出荷量の増減が、製缶数に影響を与える可能性は高い。</p> <p>【5年度】 ・出荷量の増減が、製缶数に影響を与える可能性は高いため注視していく必要がある。</p> <p>【6年度】 ・出荷量の増減が、製缶数に影響を与える可能性は高いため注視していく必要がある。</p>				
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)							
<p>【4年度】 ・もずく運搬用カゴ及び製缶用リサイクルプラ缶の洗浄機械を導入したことにより、製缶したもずくの出荷量の増加を図ること及び衛生管理の更なる促進が可能となったため、今後とも令和4年度実績の同等かそれ以上の効果を発揮していくように努めなければならない。</p> <p>【5年度】 ・自然環境を相手にする養殖業においては、外部環境の変化を受けやすいため、出荷量の増減が、製缶数に影響を与える可能性は高い。そのため今後の養殖業の動向に注視しながら、製缶出荷量の増加を図ること及び衛生管理を促進していくよう努めていく。</p> <p>【6年度】 ・自然環境を相手にする養殖業においては、外部環境の変化を受けやすいため、出荷量の増減が、製缶数に影響を与える可能性は高い。そのため今後の養殖業の動向に注視しながら、製缶出荷量の増加を図ること及び衛生管理を促進していくよう努めていく。</p>							